

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●加藤祥太騎手がJRA通算100勝を達成

7月27日(土)の1回札幌1日・第2レースではイエスサンキューが1着となり、同馬に騎乗した加藤祥太騎手(栗東・庄野靖志厩舎)は、現役93人目となるJRA通算100勝(2146戦目)を達成しました。

●浅見秀一調教師がJRA通算600勝を達成

7月27日(土)の1回札幌1日・第5レースではエイリアスが1着となり、同馬を管理する浅見秀一調教師(栗東)は、史上91人目、現役では13人目となるJRA通算600勝(延べ7005頭目)を達成しました。

●ディーブインパクトが死亡

7月30日(火)、ディーブインパクト(牡17歳)が、繋養先である北海道安平町の社台スタリオンステーションにて死亡しました。2005年の3歳クラシック三冠を無敗のまま制するなどGIで計7勝をあげ、2005年・2006年にはJRA賞年度代表馬に輝いた同馬は、JRA通算13戦12勝・海外1戦0勝の成績を残して引退。種牡馬としてはこれまで、ロジャーバローズら5頭の日本ダービー馬、牝馬三冠を達成したジェンティルドンナなど数多くのGIウィナーを送り出して2012年から2018年まで7年連続でリーディングサイヤーを獲得、また海外でも英2000ギニーを勝ったサクソンウォリアー、仏ダービーを勝ったスタディオブマンなど産駒は活躍。2008年には顕彰馬に選出されています。本年は頸部に痛みが出たため、シーズン途中で種付けを中止し、7月28日に手術を実施。術後の経過は安定していたものの、翌29日に突然起立不能となり、30日にはレントゲン検査で頸椎の骨折が判明し、回復の見込みが立たないことから安楽死の処置が取られたものです。

●ペルーガ、アップトゥデイトの競走馬登録抹消

2017年KBS京都賞ファンタジーS(GIII)の勝ち馬ペルーガ(牝4歳/栗東・中内田充正厩舎)は、7月25日(木)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績は8戦2勝で、今後はオーストラリアで繁殖馬となる予定です。2015年中山大障害(J・GI)などの勝ち馬アップトゥデイト(牡9歳/栗東・佐々木晶三厩舎)は、7月26日(金)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績は35戦10勝・地方2戦0勝で、今後はJRA馬事公苑で乗馬となる予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●兵庫の熊本産馬キヨマサが霧島賞(佐賀)を圧勝し3度目の制覇

九州産馬限定の霧島賞(3歳以上、7月30日、佐賀、1400m、JRA所属馬は2勝クラス)は、中団から追い上げた2番人気の兵庫からの遠征馬キヨマサ(山口勲騎手=佐賀、牡7歳、父ソングオブウインド)が、逃げた単勝1.8倍で断然人気のダンツブライトを3、4コーナー中間で捉えて6馬身引き離し、2016年(JRA在籍時)、2017年に次ぐ3度目の霧島賞制覇を果たしています。

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド佐賀の結果

2019ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド佐賀は7月30日に実施され、第1戦は松木大地騎手(兵庫)、第2戦は出水拓人騎手(佐賀)が勝利を収めました。

●リンゾウチャンネルが北海道三冠を達成【各地の主要3歳重賞】

王冠賞(8月1日、門別、1800m)は、先手を取ったリンゾウチャンネル(牡、父モンテロソ)がクビ差で辛くも逃げ切り、単勝1.1倍の支持に依って史上5頭目の北海道三冠を達成しました。MRO金賞(7月30日、金沢、1900m)は、2番手から向正面半ばで抜け出した5番人気の兵庫からの遠征馬テツ(牡、父ストロングリターン)が後続をクビ差振り切って重賞初制覇。1番人気に推された兵庫ダービー馬バンローズキングスは3着に敗れています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1“キングジョージ”～エネイブルが11連勝で制覇

7月27日にイギリスのアスコット競馬場で行われたG1キングジョージVI世&クイーンエリザベスS(3歳上、芝2390m)はL.デットーリ騎手が騎乗したエネイブル(牝5歳、父ナサニエル、J.ゴズデン厩舎)が制しました。大外11番ゲートからスタートしたエネイブルは序盤、先行するかに見えたが、ペースが速いとみるや、控える形に切り替えて後方を追走。最終コーナーで一気に加速して4、5番手で直線に向くと、最後はG1プリンスオブウェールズSの覇者クリスタルオーシャンを競り落としてクビ差で優勝しました。エネイブルはこれで一昨年5月のチェシャーオークス(芝2270m)から11連勝で、G1は9勝目。G1キングジョージVI世&クイーンエリザベスSは3歳だった2017年以来の2勝目となりました(同レース2勝は1973年・1974年連覇のダリア、1997年・1998年連覇のスウェインに続く史上3頭目)。なお、日本から参戦したシュヴァルグランはエネイブルの右斜め後ろ、後方3番手でレースを進めましたが、直線で伸びを欠いてエネイブルから12馬身 $\frac{3}{4}$ 差の6着に終わりました。